

ウイルス学会関連研究集会紹介

## 2. 第15回夏の学校『みちのくウイルス塾』報告(7月16・17日)

西村 秀一

独立行政法人国立病院機構仙台医療センター  
臨床研究部ウイルスセンター

日本ウイルス学会教育研究支援委員会と当院の地域連携室の共催による夏の学校『みちのくウイルス塾』が今年も当院大会議室を会場に開かれました。今回は、第12回に続く「ウイルスを観る」と題した特集の第二回目で、6つの講義のうちの半分が、ウイルスの動きやかたちを最新技術で見る企画でした。参加者延べ144人と、今年も大盛況で、講義の後に会場からの活発な質問に先生方が丁寧に答える、いつもながらの熱気に満ちた会になりました。

講師と演題は以下の通りです。(肩書・敬称略)

1. 特集(第二回)ウイルスを視る -1) 「光とウイルス…インフルエンザウイルスの光ピンセットによる人為的感染操作」 日本大学薬学部 本田文江
2. 「ヒトとエイズウイルスのせめぎ合い:動物モデルを用いた研究と、ウイルス・宿主の進化的相互作用」…これまで見てきたこと、やってきたこと、これからやりたいこと 京都大学ウイルス研究所  
ヒト・レトロウイルス研究施設 佐藤 佳
3. 「それでもウイルス?」 岡山大学資源植物科学研究所 鈴木信弘
4. 「ウイルス学者、行政官そして小児科医…さまざまな視点から見る国際的感染症」 自治医科大学小児科学/厚生労働省健康局 田村大輔
5. 特集(第二回)ウイルスを視る -2) 「インフルエンザウイルスの転写機構を視る」 京都大学ウイルス研究所ウイルス微細構造研究領域 野田岳志
6. 特集(第二回)ウイルスを視る -3) 「新規の誘電率顕微

鏡による溶液中のウイルスや生物試料の直接観察」

国立研究開発法人産業技術総合研究所  
バイオメディカル研究部 小椋俊彦

7. 「ウイルス塾恒例おさらいクイズ」…押しボタンで解答する聴衆参加型クイズ: ウイルス塾を二倍おいしく!! 獨協医科大学医学部微生物学講座 増田道明

### 今回の講義の概要

初日は、当院の田所院長の挨拶に続き、本田先生の光ピンセットによる1個のウイルスの捕捉と細胞への感染、細胞内でのRNPの動きの解析の話がありました。次は、学生時代に当塾でウイルス学と出会いウイルス学の道に進んだ佐藤先生の、まさに「故郷に錦を飾る」講義で、平成27年度杉浦賞受賞の、ヒトのHIVに感染するマウスを遺伝子操作で作り上げ、これをモデルにHIVの感染の詳細を研究する話、そして、当塾二度目の登壇の鈴木先生から、最近カビを宿主とするウイルスで発見されたウイルス学の「常識」を打ち破る「ヤドカリウイルス」の発見とそのほかのいろんな「変わり者ウイルス」の話がありました。二日目は、小児科医でありウイルス学者である田村先生の、大学⇒WHO⇒厚生労働省と所属と立場を変えてウイルス感染症に取り組まれている話、そして当塾二度目の登壇の野田先生の、原子間力顕微鏡やクライオ(凍結)電子顕微鏡といった最先端の電子顕微鏡技術でウイルスの遺伝子複製を詳細に「視る」話、そして最後に、「スルメよりも生イカ!」をキャッチコピーに、溶液中でのそのままのウイルスの姿が観察できる、小椋先生発明の将来有望な新技術、誘電率顕微鏡でのウイルス観察の話がありました。

### 「ベストクエスチョン賞」と「おさらいクイズ」

今回ベストクエスチョン賞の選考は、初日は、東京都医学総合研の小池智先生、埼玉医科大学の三谷先生、二日目は岩手医科大学の村木先生にお願いしました。受賞者は以下の通りです。

ベストクエスチョン賞

(初日) 東北大学大学院農学研究科1年 両角一輝さん

### 連絡先

〒983-8520

宮城県仙台市宮城野区宮城野2-8-8

独立行政法人国立病院機構仙台医療センター

臨床研究部ウイルスセンター

TEL & FAX: 022-293-1173

E-mail: vrs.center@snh.go.jp



質問に立つ学生さんたち (1, 4 段目) ; 参加者の集合写真 (2 段目) ; 講師の先生方 (3 段目)

選考理由：3人の先生方に対して、「基本的なことを教えてください」と言いつつ積極的に素直な質問を繰り返した点を評価しました。(小池, 三谷両先生)

(2日目) 福島県衛生研究所 柏木佳子さん

選考理由：ウイルスの増殖機構、特に8種類のゲノムが1つにまとまって粒子にとりこまれる機構があるのか、というウイルス学の本質を突く素晴らしい質問でした。(村木先生)

クイズ優勝者

(初日) 医薬基盤研究所 森宣瑛さん, 弘前大学農学部4年 石村麻里奈さん (同率1位)

(2日目) 東北大学大学院薬学研究科 中村大地さん

この会は、「みちのく」という名を冠しておりますが、遠方からの聴講者も歓迎しております。来年も聞き逃せな

い講演を準備しております。皆様、ぜひふるってご参加ください。また、お近くの若い方でウイルスに興味のある方にお勧めいただければ幸いです。なお、本塾についての情報、実際の会のようす、そして講師提供による講師が講演で使用したスライドや講師の話をも聴講者が解説した聴講録(講師による添削済み)、そして講師と聴講者等の間の質問とそれに対する回答のやり取りなどを、当ウイルスセンター・ホームページのサイトに掲載しております。面白いので、ぜひ、いちどご覧ください。(http://www.snh.go.jp/Subject/26/juku/index.html)

最後に、毎回、演者の選択には大きな努力を注いでおります。今年も、みんなに聞かせる面白い話はないかと、ウイルス学会の会場を右往左往する筆者です。自薦他薦、かまいませんのでぜひお声おかけください。

### ----- みちのくウイルス塾について -----

当塾は平成13年に始まった日本ウイルス学会教育研究支援委員会と当院の地域連携室の共催の講演会です。前者からはボランティアの講師とその旅費の提供、後者からは場所と宿泊施設の無償提供と意見交換会の資金援助をいただいています。

一般の医療関係者や学生さんたちに近寄り難いと思われがちなウイルス学への理解者を増やし、あわよくば将来ウイルス分野に進む若者が出てくれることを願って始めた会で、基本的に海の日を含む7月の3連休の最初の2日間に行い、土曜後スタート、日曜昼終了というかたちで行われています。毎回だいたい6人の講師が講義をしますが、講師陣には、自分の得意な分野について、「素人にもわかる、わかりやすい話をする事」が求められています。

講師は、筆者の個人的な声かけで、ベテランから若手まで、ウイルス学各分野で活躍する研究者に全国からボランティアでお越しいただいております。中には、かつて聴く立場で参加していた学生がその後講師になる人たちもいて、今後そういった人たちが増えてくれることを願っています。また、当代きっての研究者にならんで、将来が嘱望される大学院生にも、一般の人たちに対して自分の研究をわかりやすく伝える勉強という意味で発表の場を与えています。また、ウェブサイトに掲載する聴講録書きも、他のひとにわかりやすく解説する勉強として、書き直しや発表した先生方による添削を経ての掲載にしております。

